



背骨の変形に関する「低侵襲の手術」などを解説する小谷副院長・脊椎脊髄センター長

「低侵襲」出血を軽減

市民ら背骨変形手術学ぶ

製鉄記念室蘭病院

製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）の「第26回市民健康セミナー」が15日、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれ、市民が体への負担を少なく

して背骨の変形を治療する「低侵襲の手術」に理解を深めた。

小谷善久副院長・脊椎脊髄センター長が、特発性側彎症や、成人側彎症、変成

側彎症の治療法などについて解説した。

同病院を含む全国6施設が先行臨床研究を進める「脊柱側彎症に対する低侵襲的前方固定術」では、これまででの手術と比べて出血量が10分の1程度に抑えられるなど、「患者の多くを占める」高齢者のリスクも軽減できる」と話した。

また、2013年（平成25年）10月開設の「脊椎脊髄センター」が携わった、背骨の変形手術に関わるさまざまな症例も解説。脊椎脊髄外科分野での先進医療が、小児や高齢者に対する侵襲度低減と手術精度向上につながっている現状に、市民らは耳を傾けていた。

（松岡秀宜）